

関係者インタビュー

株式会社和田製作所
開発部 課長 鈴木 敦也氏

2012年12月7日 インタビュー:中部オフィス 大石 誠

最大8mのNC5軸
切削加工が可能



「お困りごと」引き受けます ～航空宇宙機器技術を医療機器に活かす～



鈴木 敦也氏

当社は航空宇宙機器サプライヤーとして、設立から約40年間航空宇宙機器用の治具や部品を設計・製作しております。医療機器分野では、大学等から依頼を受けて研究協力をするという形で、研究開発等を行ってきました。しかし今後、高齢化社会を迎えることから、そこに何か弊社の技術が役に立つのではないかと、今年の春から本格的に医療機器の取り組みを始めております。これまでに培ってきた技術を活かすことで、我々はこの医療機器を第二の軸として展開して行きたいと考えています。

◆医療関係者とともに取り組む研究開発

航空宇宙機器とは勝手の違う医療機器に関しては、どのような需要があるのか、どのような販路開拓が良いのかという課題があり、そのハードルの高さを感じております。弊社は最大8mを高精度にNC5軸切削加工する製造工程で、1点1点形状の異なる複雑3次元形状を製作することを得意としています。その技術を活用して、これまでに手や足の個々の形に合わせたオーダーメイド製品の高精度製作で、規格品では対応できない医療従事者の操作性の向上や患者の利便性、効果の向上の研究協力を行っています。また今後も調査を進めることでさらに弊社の技術が活用できる部分を見出して医療機器分野への貢献を深めていきたいと考えています。

◆洗い出した技術を新事業に活かす

今回の研修はセミナーと実習がセットになっていて、個別の案件に対して相談にのっていただけたことが非常に良かったと思います。この4ヶ月間でかなり頭の整理ができました。その中でも、我々にとって一番難しく、また今後の事業展開に役立ったのが「技術の洗い出し」です。航空機産業では全ての工程を手配する一貫受注体制を行っています。洗い出しの作業を通じ、この手法を医療機器に上手に適用できるのではないかとということがわかってきました。しかし、これをわかりやすくお客様目線で伝えることがとても難しく、技術者がマーケティング視点を持つことの重要性を改めて感じました。ここは出展などを通じてアピールしていかなければいけない部分でもあり、今後さらに調査を進めるべきであると感じています。また、医療分野での出展は初めてでしたが、来場者への説明の方法など、航空機器の展示会とはまた違った工夫が必要であることがわかり、新たな課題を見出すことができました。

◆「お客様の困りごと」に技術で応える

我々は、医療機器に関してはとにかく、「和田製作所」という名前でも物を売るといよりも、お客様の困りごとに対して技術でお応えしていきたいと思っています。ユーザーのところまで足を運び、本当の困りごとで我々の技術で何が解決できるのかを考え、お客様の希望する規格・価格で受注できるよう前向きに対処する、そういった取り組みがイノベーションに繋がっていくのではないかと考えます。そして、航空機器を設計・製作している実績から、医療介護福祉分野に展開して行くことで、これらの取り組みを通じて中部圏のものづくりを強くし、より一層盛り上げていきたいと考えています。

■ 本事業に関するご紹介はこちらから >> http://www.jmac.co.jp/special/health_care/

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング
TEL.03-3434-0982 mail :healthcare_jmac@jmac.co.jp

URL:<http://www.jmac.co.jp>